

小児科診療 UP-to-DATE

2022年2月15日放送

医療的ケア児の母親が働くことを選択できる社会を目指して

一般社団法人 Burano
理事 秋山 正明

一般社団法人 Burano について

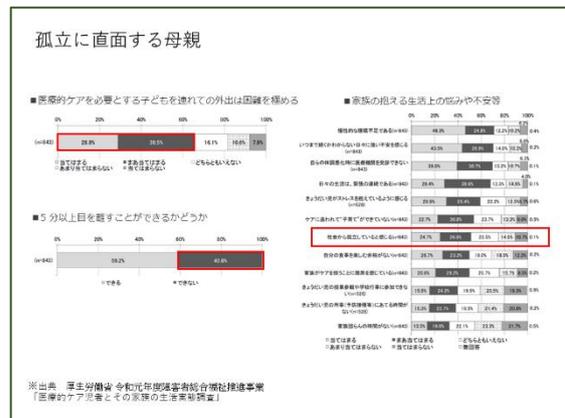
一般社団法人 Burano 理事の秋山正明です。本日は医療的ケア児の母親の就労に関してお話をさせていただきます。まず始めに一般社団法人 Burano のご説明をさせていただきます。Burano は 2018 年 4 月からスタートしたまだ若い事業です。医療的ケア児のお母さん達と一緒に立ち上げた団体となっており、医療的ケア児、母親そして兄弟姉妹を支援する団体として日々事業を行っています。



就労の実態

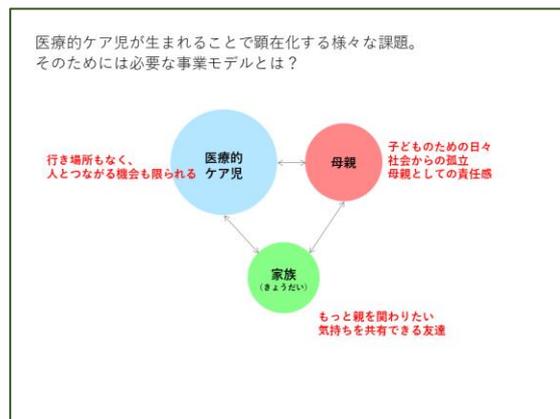
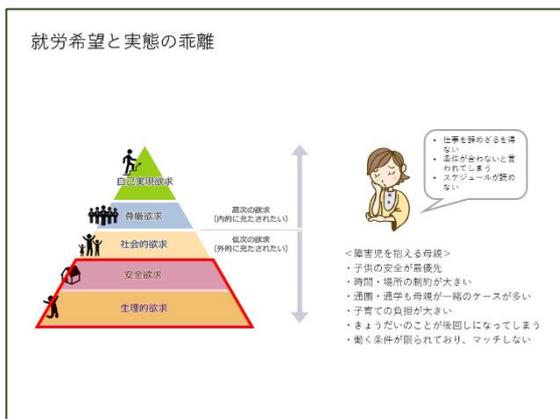
本日は、母親の就労についてお話しさせていただきます。医療的ケア児が生まれると、母親は社会的に孤立します。厚生労働省がまとめている「医療的ケア児者とその家族の生活実態調査」によると、約 65%の母親が「医療的ケアを必要とする子どもを連れての外出は困難を極める」と答えています。また、40%の母親が「子どもから 5分以上目を離すことができない」と答えています。そして家族の抱える生活上の悩みとして、「社会から孤立していると感じている」と答えている割合が約 50%に到達しています。

医療的ケア児が生まれることで母親が社会から



孤立してしまうと感じている中で、就労することは特に遠い問題になってしまいます。同じ調査の中で、医療的ケア児の母親が希望する形態で仕事につけているかどうかのアンケートに関しては、88%が「希望する形態で仕事に就きたい」と答えています。一方で、実態として仕事に就けているかどうかでいきますと、75.6%が「仕事に就けていない」と答えており、約8割のお母さん達が働いてない実態があります。そのため、医療的ケア児が生まれると、母親は就労することはもちろん、社会とのつながりを感じることも難しくなっていきます。

マズローの欲求5段階説 (Maslow's hierarchy of needs) によると、生理的欲求・安全欲求・社会的欲求・尊厳欲求・自己実現欲求と5段階の欲求が表現されていますが、医療的ケア児が生まれることによって、最下層の生理的欲求や安全欲求を満たせる場所は、家か病院でしかなくなり、お母さん達は社会的欲求や尊厳欲求・実現欲求を満たすことが難しくなってしまいます。



Burano はそんな問題から、医療的ケア児の子ども達をお預かりするだけではなく、お母さん達が就労し社会と繋がることを実現するために、事業をスタートしています。

ママのためのワークスペース kikka

kikka はママのためのワークスペース事業としてスタートしました。医療的ケア児の母親は時間と場所の制約が大きく、例えば、地域でスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどシフトによる働き方ですと、時間の制約が大きくなり、またその場所に行くまでに距離が離れています。そのことから医療的ケア児の母親が継続的に働くために、時間と場所の制約にとらわれない働き方を実現する必要がありました。そこで調べていくうちに出会ったのが“クラウドソーシング”という働き方でした。クラウドソーシングとは、打ち合わせから納品までインターネット上で完結する仕事になっています。時間や場所にとらわれない仕事となっており、受発注が実現できます。このクラウドソーシングの働き方を医療的ケア児の母親が実践することによって、就労を実

現したいと考えました。

働き方を実現する上で、4つの段階に分かれて仕事を進めています。1つ目が基礎能力の獲得です。これはインターネットとパソコンがあればどこでもできるクラウドソーシングの働き方を実現する上で必要なタイピングをする力、文章を考える力、また基本的なパソコンの使い方、そしてパソコン上で使うソフトの使い方、こういった基礎能力の獲得が第一段階となります。

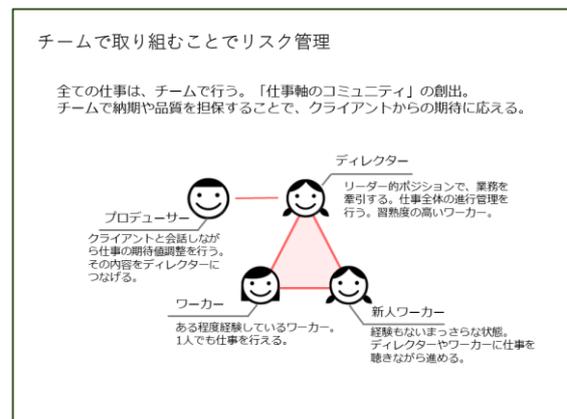
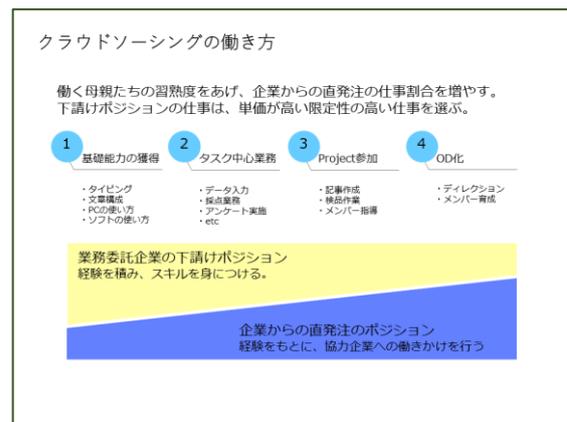
そして2つ目がタスク中心の業務からスタートします。タスク中心の業務とは、データを入力したり、テスト結果の採点を行ったり、アンケートを実施したりなど、単純作業を積み重ねていくこととなります。

そして3つ目がプロジェクト参加になります。インターネット記事の作成や記事の検品作業、そしてタスク中心の業務を行っているメンバーの指導等、より高度な業務が必要となってきます。

そして4つ目がオンラインディレクター化です。これはインターネット上に発生する様々な仕事に関して、進行管理をしたり、ガイドラインを決めたり、メンバーを育成したりと、ディレクション業務中心の仕事になります。

この4つの段階をお母さんたちのスキルに合わせて進めていくことによって、仕事を成立させています。また、医療的ケア児の母親は、子どもの入退院や体調の変化によって外出ができないなど、様々な制約が発生します。そのため、医療的ケア児のお母さんだけで働くという仕組みではなく、地域の健常児のお母さんも一緒に働けるチーム作りを工夫して行なっています。

例えば入院が重なってしまっただけで急遽仕事に参加できなくなっても、安定している健常児のお母さんが働くことによって、チームで仕事のリスクを管理することができます。現在 Burano ではプロデューサーという仕事全体を管理し顧客とのコミュニケーションを行う人、そして仕事をしっかり進めていくディレクターがリーダー的ポジションで業務を牽引します。そこにチームメンバーとしてある程度経験しているワーカー、一人でも仕事を行います。そして最後に新人ワーカー、経験のないまっさらな状態ですが、ディレクターやワーカーに仕事を教えても



らいながら、少しずつ仕事の能力を高めていきます。こういったチームで仕事に取り組むことによって、年々様々な企業や団体から仕事をいただいています。

そして **kikka** という事業で働くお母さん達も **Burano** がある茨城県古河市だけにとどまらず、東京や埼玉・千葉など、リモートで働くお母さん達も増加してきています。

クラウドソーシングによる仕事例

現在行っている仕事を具体的にお話ししますと、1 つ目が録音データのテープ起こしの仕事が挙げられます。

インタビューや対談の録音データをいただき文字起こしします。このお仕事もチームで進めています。まずは、テープ起こしに慣れていない、少ししか経験がないお母さん達が素起こしという形で、できる限り文字起こしします。その起こしたデータに対して、これまで業務でテープ起こしを行ってきたお母さんがフォローに入り、しっかりとした品質まで高めます。その後、統括して企業に納品することによって、1 つの仕事に対してチームで取り組むこと、また 1 つの仕事をシェアすることによって、何名もの方が仕事に関わりながら進めることができます。

もう 1 つがインターネット記事の検品です。企業がインターネット上に様々な記事を掲載する際、何点ぐらいの写真が必要なのか、掲載されているリンクを押すとその通りのページに飛ぶのか、またインターネット記事上に必要なキーワードをふんだんに取り入れているかなど、ガイドラインに沿ってインターネット記事の検品を行います。

仕事の単価も内容によって変わることがありますが、例えばテープ起こしですと時給にすると 600 円から、慣れている方が進めると 1,500 円まで増加します。インターネット記事の検品に関しても、慣れているお母さんですと時給 1,800 円ほどの仕事を進めることができます。こういった仕事も、先ほどお伝えしたオンラインディレクター化ができるようになり、仕事の進行管理やガイドラインを作るお仕事もできるようになると、月給 20~30 万円程稼いでいる方もいらっしゃいます。

今後の展望

お母さん達が働く事業を始めて 3 年半が経ち、直面している課題があります。1 つがパソコンの作業に慣れないことで、仕事の生産性が高くないことです。そして 2 つ目が子供の体調の変化が激しいため、仕事の習熟度が上がりにくく、ぶつ切れの仕事になってしまっているということです。また、仕事と働き手のバランスをとるのが難しく、働くお母さんたちが増えていっても、企業からの仕事が増えていかないと、一人当たりの仕事量が減ってしまいます。常に仕事量と働き手のバランスをとりながら少しずつ前に進めているのが現状です。そして 3 つ目が **kikka** ができることによって、働けないと答えていたお母さんたちが働けるようになりましたが、そこには仕事の選択の余地はありません。パソコンを使ったインターネットでの仕事だけではなく、接客であり地域に発生するような仕事を今後作っていく必要性を感じています

そういった課題から、kikka は次のステップを考えています。それはパソコンにとらわれすぎず、地域でライフスタイルに合わせた仕事を作っていくということです。1週間で5日間働くことを基本とするのではなく、子どもに医療的ケアがあっても、子どもの体調や自分の心の余裕がある時に働けるような仕事を地域で作っていくことです。

現在 kikka で働くお母さん達とチームを作り、どんな仕事ができるか、どんなことをやっていきたいかという話し合いが進んでいます。人と繋がりたいと考えているお母さん達にとって、接客をするということは大きな目標となっています。

今後はお母さん達が無理しすぎず、自然と働き続けられるような、そんなライフスタイルに合わせた仕事を作っていくことを考えています。それができれば、働きにくいと感じている社会のお母さん達や、例えば退職し働き方を自分の生活に合わせてゆったりと進めていきたいと考えている方々にとっても、新たな働き方に繋がっていくのではないかと考えています。

社会から孤立する医療的ケア児のお母さんたちが、仕事を通じて人と繋がることはとても大切だと考えています。趣味や遊びで繋がるのと違って、仕事は共通の目標に向かって走っていきます。お互いを同じ目標の中で支え合いながら仕事を進めていくことで、新たな関係性が生まれていきます。そこに健常児のお母さんも加わることによって、医療的ケア児の問題が健常児のお母さんにとってもより身近な存在に感じ、地域で医療的ケア児を支えるそういった1つの手段と変わっていきます。また、医療的ケア児のお母さんが働き始めることによって、これまで我慢していた「美容室に行く」「化粧品を買う」「旅行に行く」そういった働けないことによって我慢していたことを一つ一つ叶えることができているのも大きなメリットだと考えています。

医療的ケア児の母親の就労
そのためには必要な事業モデルとは？



世界はもっとカラフルにできる。

「小児科診療 UP-to-DATE」

<http://medical.radionikkei.jp/uptodate/>